

富山市呉羽丘陵におけるハコネサンショウウオの記録

著者	南部 久男
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	19
ページ	45-46
発行年	1996-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=668

短 報

富山市呉羽丘陵におけるハコネサンショウウオの記録*

南部 久男

富山市科学文化センター

富山市呉羽丘陵に、富山県の丘陵地帯では記録のないハコネサンショウウオが、過去に生息していたことが明らかとなったので報告する。

本報告をまとめるに当たり、貴重な標本を寄贈され、情報を提供いただいた中川秀幸氏に厚くお礼申し上げます。

ハコネサンショウウオ

Onychodactylus japonicus (Houttuyn)

採集年：1976年(昭和51年)。月日は不明。

採集場所：富山県富山市住吉呉羽丘陵(図1)。標高80m。道路脇の、大きさ80cm×80cm、深



図1 ハコネサンショウウオ幼生の確認地点(黒丸)

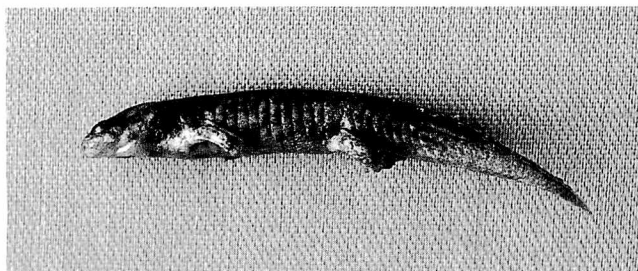


図2 呉羽丘陵産ハコネサンショウウオの幼生

さ50cmのコンクリート製の砂止めの中で幼生3個体が発見され、1個体が採集された。

標本：TOYA-Am-2034(図2)：全長61.4mm、体長32.7mm(アルコール標本)；発生段階、stage 69(岩沢・解良(1980))による幼生完成期。

採集者：中川秀幸氏(富山市)

備考：標本は1995年9月7日に寄贈を受けた。

1995年11月28日に現地調査を行った。道路をはさみ、両側に幅約30cm、深さ約20cmのコンクリート製の側溝がある。水が滲み出ている側溝約200mを調査した。西側の側溝にコンクリート製の砂止め4ヶ所が設置してあり、底には土砂、落ち葉が堆積していた。砂止めは、上流より大きさ80cm×80cm、深さ50cm、水深約10cmが2個、大きさ1m×1m、深さ50cm、水深10cmが1個、大きさ1.5m×1.2m、深さ50cm、水深10cmが1個あった。4個は上流より7m、5m、50mの間隔で設置してあった。約200m上流の側溝から、継ぎ目や側溝の上からしみだした水が流れ、砂止めに溜まっていた。側溝の周辺は、幅数mは平坦であるが、その上部は斜面で、コナラを主体とする二次林である。4ヶ所の砂止めからは、いずれもハコネサンショウウオの幼生は確認出来なかった。1976年に幼生が発見されたのは、上流から2番目の砂止めである。

ハコネサンショウウオは、近年(1992~1993年)の呉羽丘陵での調査では確認されていない(南部・福田, 1994)。本種は、富山県では山地に生息し、富山県中央部の射水丘陵でも記録されていない(富山県両生・爬虫類研究会編, 1987)。呉羽丘陵における生息記録は、富山県の丘陵地帯では極めて珍しいと思われる。本種の幼生は、山地の谷川などでよく見られるが、孵化までの期間は、飼育温度10°Cで142日、15°Cで100日も要するため(岩沢・解良, 1980)、安定した産卵環境、すなわち、低温で水が年中枯れないこと、乱囊が付着する場所の岩などが安定していること等が必要と考えられるが、このような場所は、丘陵地帯には非常に少ないものと思われる。

呉羽丘陵には、現在ホクリクサンショウウオの生息のみが確認されている。クロサンショウウオは、1950年に生息が確認されているが、近年の調査では確認されていない(南部・福田, 1994)。

*富山市科学文化センター研究業績第169号

文 献

岩沢久彰・解良芳夫, 1980. ハコネサンショウウオの発生段階図表, 爬虫両生類学雑誌, 8(3):73-89.
南部久男・福田保, 1994. 呉羽丘陵の両生類・爬虫類. 富

山市呉羽丘陵自然環境調査報告, pp.201-210. 富山市科学文化センター発行.
富山県両生・爬虫類研究会編, 1987. 富山県の両生類・爬虫類. 富山県発行. pp.66.